

	<p>号外</p> <p>昭和34年4月1日</p> <p>第3種郵便物認可</p>	<p>定価1部2円</p>	<p>No.2522</p> <p>2019年</p> <p>9月4日</p>	<p>県人勧交渉も目前。「大型ハガキ」は書きましたか？多くの署名を集約し改善勧告を強く求めていこう。</p>
		<p>発行所</p> <p>盛岡市内丸10番1号</p> <p>岩手県庁内</p> <p>岩手県職員労働組合</p>		

2019県人勧闘争②

まやかしの『住居手当』改定は許さない

2019国人勧追従でなく職員負担解消の手当見直し求める

2019 国人勧では、2020 年4月から住居手当の見直しの勧告を行った。国人勧での住居手当見直しの内容は、①国家公務員宿舎の使用料の上昇を考慮して、手当の支給対象となる家賃額の下限を4,000円引き上げる、②改定により生ずる原資を用いて、最高支給限度額を1,000円引き上げる、③手当額が2,000円を超える減額となる職員には1年間の経過措置を設ける(2,000円を超える減額相当分につき補填を予定)もの。

見直しの概要は右図のとおり。

国人勧の問題は、家賃額61,000円以上の層は、最大1,000円の引上げに過ぎず、家賃額58,000円以下の層では軒並み2,000円台の引き下げとなることだ。

右表は、家賃月額の詳細な影響額の試算と当県の構成比(2018年度地公共関調査結果を基に試算)だ。この数値を見る限り、国人勧と同じ見直しとなった場合、6割超が引き下げの対象となり、その多くが

2,000円の引き下げの影響を受ける(さらに経過措置の対象者も僅少)。一方で、見直しによる引上げ対象は4割弱。この見直しが強行されれば、賃金水準が低い若年層の影響はもとより、あらゆる年代への影響も計り知れない。

国人勧は国家公務員宿舎料の見直しを踏まえたこと、住居手当の原資配分で見直しをしたものであり、この人勧は官民較差解消(2019 国人勧でも民間が公務員より住宅手当が3,000円高い)という本来の趣旨から乖離した「まやかし」の改定といえる。

しかし、昨年度までの県人事委員会での交渉では「国が住居手当の引き上げを行えば、県も引上げを検討する余地がある」と示していることから、安易に国と同様の勧告をすることへの警戒が必要だ。「まやかし」の国追従の住居手当見直しではなく、家賃高騰や自己負担解消の観点での県独自の改善勧告を求めていかなければならない。

現行	
区分	手当額
12千円超～23千円	家賃額 - 12,000円
23千円超～55千円	(家賃額 - 23,000円) / 2 + 11,000円
55千円超	27,000円

↓

改定後	
区分	手当額
16千円超～27千円	家賃額 - 16,000円
27千円超～61千円	(家賃額 - 27,000円) / 2 + 11,000円
61千円超	28,000円

【事例1】月額家賃45,000円の場合
 ○現行 = (45,000円 - 23,000円) / 2 + 11,000円
 ⇒ 22,000円 …(A)
 ○改定後 = (45,000円 - 27,000円) / 2 + 11,000円
 ⇒ 20,000円 …(B)
 (B) - (A) = ▲2,000円(引き下げ)

【事例2】月額家賃60,000円の場合
 ○現行 = 27,000円(上限) …(A)
 ○改定後 = (60,000円 - 27,000円) / 2 + 11,000円
 ⇒ 27,500円 …(B)
 (B) - (A) = +500円(引き上げ)

※1 家賃月額59,200円以上の場合に引き上げ対象も、58,000円台以下は引き下げ対象に。
 ※2 経過措置(▲2,000円以上)対象は15,000円台～26,000円台にとどまる。

家賃月額	影響額	構成比	引き下げ 63.1%
15,000～23,000円	▲2,100～▲4,000円	0.5%	
23,000～27,000円	▲2,100～▲3,900円	0.3%	
26,900～55,100円	▲2,000円	47.2%	
55,200～57,100円	▲1,000～▲1,900円	7.1%	
57,200～58,900円	▲100～900円	8.0%	
59,000～59,100円	±0		
59,200～60,900円	100～900円	7.1%	引き上げ 36.9%
61,000円～	1,000円	29.8%	

県議選最終盤 推薦候補者議席確保に全力を

組合員1日1行動を要請します

＝ぜひ投票しましょう・期日前投票の活用を＝



盛岡) 小西和子さん

県議会議員選挙も終盤となりました。県職労推薦候補者は、各選挙区で遊説し、働く方の処遇改善を含めて懸命に訴えています。

各選挙区とも大激戦の様相となっており、いまだ確実な当選圏内となっておらず、最後までの組合員・家族・友人の支持拡大が必要となっています。

推薦県議は、2015年度からの4年間、①県職員の欠員解消と専門職種の処遇改善、②高齢層職員の勤務意欲確保策の充実、③児童相談所体制の強化をはじめ、県職労組合員が抱える課題を県議会の場で訴え、徐々に改善を実現させてきました。直近では、2020年4月導入の会計年度任用職員制度の創設に伴い、臨時・非常勤職員

の処遇改善を訴えてきました。

推薦候補が当選すれば、県職労課題をより多く県政の場で意見反映できるだけでなく、県職員の勤務労働条件は条例で決定されることから、県議会の場での意見反映を通して県職員の勤務・労働条件の改善にもつながります。

推薦候補者全員の当選で、県議会での一定の影響力を持ち、県職労はもとより、県内の働く方の立場に立った県政を実現することもできます。



奥州) 佐々木ゆみこさん

残るは5日ですが、十分に巻き返しは可能です。組合員の皆さんに「1日1人の友人・知人に声掛けをする」1日1行動を要請します。携帯電話で友人・知人に広げられる方はいませんか。ご家族や親せきに話をしませんか。1人1日1行動で情勢を変え、確実に当選に押し上げましょう。組合員の皆さんの最後までの取り組みへの結集を要請します。



北上) 佐藤ケイ子さん

＝**県職労推薦候補者**＝ 盛岡：小西和子 花巻：木村幸弘
北上：佐藤ケイ子 奥州：佐々木ゆみこ 一関：千葉進